

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100929		
法人名	有限会社大樹		
事業所名	グループホーム大樹 2号館		
所在地	茨城県東茨城郡茨城町越安1993		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成22年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしさを大切に出来ているかと職員間で日常的に話し合い共有出来ていると感じている。理念に合わない対応があった場合は、職員間でお互いに注意できる関係が目標である。ご家族・友人・親戚等の面会が頻繁にあり、利用者への思いを日々感じて介護に従事できること。代表者が無農薬野菜や米等を栽培し、職員による無添加の手作り味噌等を提供し食の安全に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護を実践していくうえで理念を基本とした介護が最も大切であり理念にそぐわない対応があった場合職員間でお互いに注意しあい理念を確認、日々介護の質の向上に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に少しずつ理解して頂けるよう介護に対してのミニ講演会等を開き、地域交流はあるものの地域の行事に利用者とともに参加するまでには至ってない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの入居者もあり、地域の方からの要望もあって今回は介護保険についての話をさせていただき、認知症等に対して少しずつ理解して頂いている。今後も続けていきたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の区長さんをはじめ、民生委員・老人会の会長等にご理解・ご協力を頂き、市町村担当者も加えて12月に開催をしたがその後皆さんと都合がつかず会議の回数は増えていない。今後積極的に回数を増やしサービス向上に努めたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の手続きや事業推進にあたり市町村担当者が訪問する等連携を取れる体制を作り市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいけるよう努めたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」また身体拘束ゼロを目指し全ての職員が認識し介護支援にあたっている。なお玄関に身体拘束宣言書を作成し表示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について全職員が理解を図り虐待の防止に努めると共に職員がセミナーや研修等に参加し報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して職員は理解しているが成年後見が必要なケースでは特定の職員が対応することとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を説明し事業所で出来ること出来ないことを明確に説明しご家族からは疑問点を引き出し重度化や看取りについての対応等詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が言いやすい職員を通して伝わることが多く直ちに全職員で話し合い改善、実施し特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。また苦情に関する相談機関を明示すると共に玄関に意見箱を設置している。また家族の訪問時には不満や要望を聞きサービス向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ要望や意見等聞くよう心がけているが不満や苦情は言い難い部分もあり把握しきれないこともあると思う。利用者の受け入れや職員間の交替等の話し合いは出来てい		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も現場に入り職員1人ひとりの日々の努力を把握しており資格取得の支援に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員だけでなく段階に応じ順番にセミナーや研修をうける機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者を訪問し良い点などを取り入れたり、相互間で改善点などを話し合う機会を作りサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において、本人の生活状況を把握し、職員が本人から安心して受け入れて貰えるよう信頼関係を作る事に努め、又、安心して日常生活を送れるよう個別のコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、求めているものの理解に努め、家族の想いを受け止める努力をし、事業所としてどのような対応が出来るか話しあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として本人や家族の想い、状況等を確認し、出来る限りの対応に努めている。又、出来ない事は事業所だけで抱え込まず、必要に応じて他のサービス機関につなげ早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していく上で、利用者から労わり励まして頂く場面も多く、学ぶ事も沢山ある。又、教えてもらう場面もあり、そういった場面を多く持つよう声掛けに配慮している。その為職員は一人一人の思いを共感し、理解できていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には御家族が利用者への面会のみに終わるのではなく、職員との話し合いを短時間でも持ち、職員の想い等きめ細かく伝える事で、共に支援していくという関係が出来ていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会を多く持ち、本人が喜び安心して頂けるよう支援に努めている。又、次の訪問等の約束を頂いたり、繋がりが途切れぬよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に支え合い、生活していけるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止むを得ず退居となった利用者には、面会に行ったりその後の相談を受ける等する事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛けや発する言葉、行動を注意深く観察し、一人一人の思いや意向の把握に努めているが、困難な場合は家族から情報を得るようにし、本人本位で考えられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のこれまでのライフスタイルを大切に受け止め、支持することで、本人の不安や動揺を最小限にする事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、本人の残存能力を見落とさぬよう、個々の生活リズムの把握に努めている。又、利用者が安心して生活して頂けるよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを活かした本人主体の生活が送れるよう、家族の意見や要望等も大切にしながら介護計画を作成。又、個々の状態に応じて担当者会議を開き、モニタリングする事で利用者本人の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状況変化は個々の記録に記載。気になる情報等は申し送りノート等を活用。職員間の情報共有の徹底、リアルタイムでの意見交換を行えるよう努め、それらを介護実績、計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、通院介助や買い物、往診等を行っている。又、地域密着型になってからは、利用に際して他地域からの問い合わせがあり、市町村の福祉課等に相談したり、他地域の紹介をする事が		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の趣味のボランティアの方に来て頂いている。養護学校の生徒の実習受け入れやボランティア等もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の受診経過を把握し、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。利用者に変化があった場合、受診時に手紙等を添えて家族から状況報告して頂いたり、職員が同行している。協力医院には月一回の往診を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員が不在の為、地域の看護職や協力医院の看護師に相談し、健康管理、状態の変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の援助方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞うようにしている。又、家族とも情報を交換しながら回復状況の把握、医師・看護師から得た入院中の状況を各職員に伝達し、退院後スムーズにホームで生活できるよう努めて		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した際、家族との話し合いや相談は行っているが、意思確認書類の作成は検討中である。家族と職員同士での話し合いも行い、方針を定めて対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はバイタルチェックを行い、状態をよく観察し、判断出来ないときはケアマネージャーに相談、指示を仰ぐ。その他の対応はマニュアルを参照する。又、応急手当の訓練は一部の職員が講習会等に参加し、伝達講習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、内1回は夜間を想定した訓練をしている。消火訓練等も利用者と一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーに配慮し、さりげない誘導や言葉掛けを心掛け、介助支援している。プライバシーに関わる内容を家族に報告する際は、居室で行うよう徹底している。又、個人記録等の情報についても、漏洩に配慮された保管となっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の願いや嗜好等、一人一人に合わせた支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に配慮しながら、一人一人に合った生活が送れるよう、日々心掛け取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望を聞き入れ、地域の理美容店へ出向いたり、職員の送迎が難しい時は、理美容店から送迎の協力を得ている。身支度等は基本的には利用者の意向で決めるが、自己決定しにくい利用者には職員と一緒に考えながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家製の野菜を利用者と収穫し、一緒に調理したりしている。彩りや食材にも工夫したり、利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事が出きるよう雰囲気作りも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態やお茶以外の飲み物を提供する等工夫しながら支援している。又、毎食後、個別に水分摂取や摂食量等を記録し、摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じたケアを心掛け実施している。夜間は義歯を預り、消毒・洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個別の排泄パターンを把握。さりげない声掛けで誘導し、排泄の失敗を最小限に抑えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で、個別の排泄パターンを把握し個別の便秘の原因を探り、水分摂取や散歩など個々に合わせた支援をしている。また食事やおやつ等繊維質の多い物を摂る工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、毎日入浴支援可能な状態である。時間帯は利用者の希望やタイミングに合わせ、楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けや対応に工夫し、進んで入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を考慮し、休息を取る支援をしている。夜間スムーズな就寝に繋げる為、日中穏やかな生活を送れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬状況をファイルし、職員が内容を把握出来るようにしている。症状に変化が見られた時は、主治医に相談している。又、服薬時は本人に手渡し、服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや庭掃き、食事の支度等一人一人が力を活かし、日々の生活の中で張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って馴染みの理美容店に行ったり、散歩や買い物に出掛ける等支援している。家族訪問時は、希望により家族と外出して楽しい時間を過ごしている。又、お盆のお墓参りや正月の外出、外泊等一部の利用者が家族と共に過ごせる時間を持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、お金を持っている事で本人が少しでも安心感を感じられると理解している。おやつを買いに行ったり、理美容店に行く際、本人からお金を手渡す意識を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛け易い雰囲気作りに努め、周りに気兼ねなく出来る様な配慮に心掛けている。手紙のやり取りは支援出来るよう準備はしているが、支援までには至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンキッチンにし、食事の用意をしている姿や音、におい等を感じながら生活している。庭には水仙、チューリップ、たらの芽、朝顔他にも四季折々の植物が植えてある。草花を土手や裏山より採取し季節感を得られるよう工夫している。又、地域の方から季節のお花を頂く事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖かい日にはデッキでお茶を飲んだり、外の景色を眺められるようにしている。又、居間にはソファを置き、誰でも寛げるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた家具や電化製品、家族の位牌等を置き、本人が使い慣れた物や安心できる物を置いて、居心地良く生活出来るよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手摺りを設置し、ウッドデッキや玄関には緩やかなスロープがある。洗面台は車椅子でも使い易い形の物を設置。各居室や場所にはネームプレートを掛け判のようにしているが、間違えそうな時はその都度職員がさりげない誘導を心掛けている。		